

経済マンスリー

[アジア]

インフレ耐性が試される ASEAN 各国に近づく米金利上昇の足音

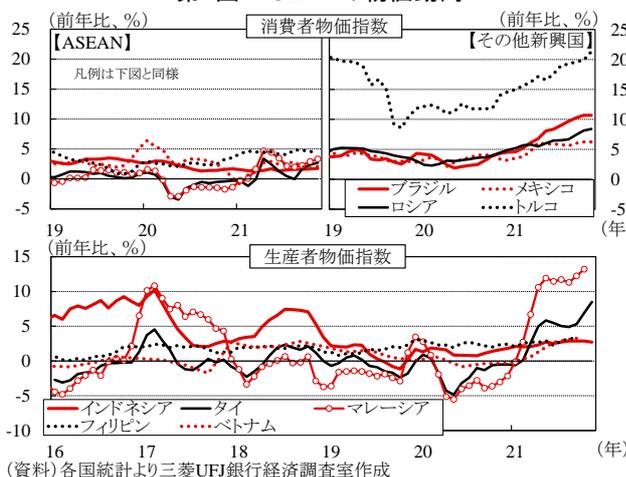
世界的な資源高や供給制約の深刻化を受け、多くの新興国では既に高インフレの波が押し寄せており、ブラジルやメキシコ、ロシアといった国ではインフレ抑制あるいは通貨防衛の観点より 2021 年に入ってから複数回利上げを実施している。

こうした中、ASEAN 各国のインフレ状況をみると、アフリカ豚熱等の影響で食品価格高が続いているフィリピンを除けば、消費者物価の上昇率は概ね各国のインフレ目標内で推移しており、中南米やロシアの新興国とは対照を成している（第1図・上、なお、ASEAN 諸国は年央にコロナ禍の深刻化で需給が緩んだ状態が続いたが、その点では他の新興国も条件が著しく異なっていたとはいえない）。また、物価安定と表裏の関係といえるが、コロナ禍の中でも ASEAN 各国は為替相場が比較的安定していて通貨防衛の必要性が低いことから、緩和的な金融政策を維持している（第2図）。

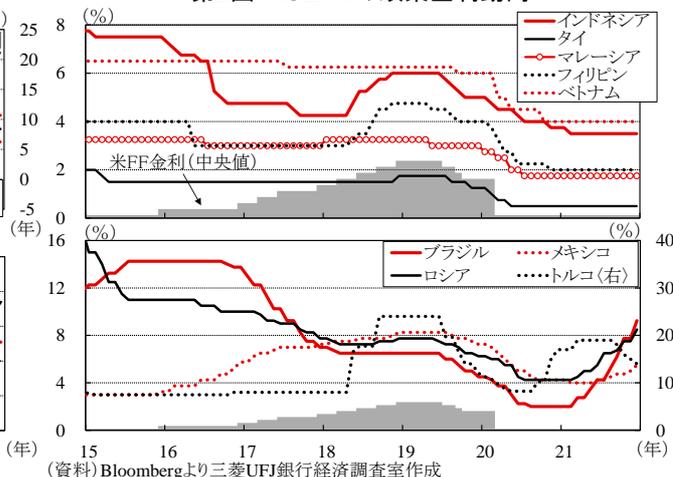
もともと、ASEAN 各国はこの先もインフレ加速及び金融引き締めと無縁、という訳にはいかないだろう。同地域の生産者物価をみると、国毎に差はあるもののタイやマレーシアではここ数年で最大の上昇率となっており（第1図・下）、これまで行動制限等による需要の低迷で顕在化してこなかった物流逼迫や資源価格上昇等の影響が、本格的な経済活動の再開により表面化し始めていると思われる。さらに、製造段階別にみると原材料物価が大幅に上昇しているのは勿論のこと、中間財物価への波及も既にみられており、この先インフレの波が消費者物価にまで波及するリスクは十分考えられる。

また、先進国の金融政策正常化の動きにも注意が必要だ。12月開催の米国 FOMC(連邦公開市場委員会)では、資産購入縮小(テーパリング)の加速が決定され、中央値で 2022 年中 3 回の利上げが示唆された。米国の利上げ開始に伴う資金流出圧力を踏まえると、米国との金利差が拡大しないよう、いずれ各国とも利上げに踏み切らざるを得まい。2022 年、ASEAN 各国のコロナ禍からの回復は金利上昇下という新たな局面に入ることとなる。

第1図:ASEANの物価動向



第2図:ASEANの政策金利動向



照会先：三菱 UFJ 銀行 経済調査室 野瀬 陽平 youhei_nose@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。